

平成13年度大学改革推進等経費プロジェクト研究報告書

筑波大学学群・学類
授業参画プロジェクトの実践報告

筑波大学
教育計画室

平成14年3月



はしがき

教育計画室を中心にFDに積極的に取り組んできた昨年までの実績を考えると、今年はそろそろ実行に移すべき時と考え授業参画プロジェクトを立ち上げることになった。詳しい経緯は清水計画室長の報告に譲るとして、はしがきでは参画した私の率直な感想を述べることにしたい。

本年度は12の講義を計画したが私はその内8つの講義を拜聴させて頂いた。全般を通じてあらためて知ったのは、先生に伝えたいものがあれば学生は素直に聴くし乗ってくる、ということであった。まったく月並みと思われるかもしれないが、これは目の当たりにした事実であって、教育の根幹は技術ではないことをあらためて知らされた。また日本人の学生はあまり質問をしないと言う風評が定着しているが、しかし聞いた授業の大半は良く質問が出ていたし、はっとするほど鋭いものもあった。もっとも質問が良く出る授業は先生の工夫があって、先生から学生にたえず問いかけがあり、日頃から対話形式に導入するよう仕向けていることもあったには違いない。

全般にわたって特徴的だったのは意外にも教育機器があまり使われてはいなかったことである。中でも白眉は牧岡先生の動物分類学概論であって、先生は色の違うチョークで進化過程の動物をいく種類もすらすら書かれるのである。これが拡大も縮小も自由であって、さすが機器は要らないと感服したのだった。後で何うと、たまたまその時OHPが故障していたのだそうで、苦笑されたお顔が印象的であった。

こう書いてくるといいことづくめで、いまさらFDなどいらぬのではと思われるかもしれないが、そうではない。授業を聞かせていただいていた一番ためになったのは私も含め教育計画室の先生方ではなかったろうか。ああこういうやり方があるか、そうかここで一呼吸も悪くない、なに演習を先にやるの...等々、参考になる点が多いのである。ともかく聴いている我々はほとんど飽きもせず、すべての講義を聴くことができた。この経験を今後のFDプロジェクトにどのように展開していくかは教育計画室の今後の課題としておこう。

すべてを聴き終わって反芻してみると、分野の多さとそこで語られる内容の濃さが蘇る。これらが同時に大学のあちこちの教室で行われているかと考えると戦慄のようなものが走り、あらためて大学の凄さを思い知ることとなった。本年度選ばれた講義はすべて定評のあるものである。全学の講義をこのような水準に引き上げれば、大学の将来について実り多い展望を持つことができるに違いない。

副学長の日常業務はただただ忙しく、つまらぬものが多い。その中であって講義を聞かせて頂くのはとても楽しいものであった。ここで、このプロジェクトに快く応じ講義を見せていただいた先生方と、熱心に取り組まれた教育計画室の先生方に心より謝意を表したい。

平成14年3月

教育担当副学長 腰塚 武志

目 次

はしがき

腰塚武志 1

第1章 学群・学類授業参画プロジェクトの実施経過について

清水一彦 7

第2章 授業参画プロジェクトの実践記録

第1節 電磁気学Ⅰ（工藤 博）

上殿明良 17

第2節 動物分類学概論（牧岡俊樹）

小川俊樹 20

第3節 道徳教育（福田 弘）

高田 彰 23

第4節 授業づくり演習（谷川彰英）

吉江森男 30

第5節 造形論B（蓮見 孝）

清水一彦 35

第6節 対人社会心理学（松井 豊）

吉江森男 39

第7節 臨床人間学（庄司進一・紙屋克子）

清水一彦 45

第8節 電磁気学Ⅱ（植 寛素）

上殿明良 51

第9節 日本語・日本文化基礎論Ⅲ（千本秀樹）

真田 久 55

第10節 情報科学Ⅱ（福井幸男）

木村 浩 59

第11節 学際研究Ⅱ（宮本陽一郎）

真田 久 62

第12節 線形代数Ⅲ（坪井孝司）

上殿明良 66

第3章 研究会報告：「学生参画型授業の理論と実践」

林 義樹 73

プロジェクト研究員名簿